

基準該当者功労調書

一、略歴

(職名) 木曾岬町教育委員会教育長

(氏名) 山北 哲

昭和四十四年三月	三重大学教育学部卒業
昭和四十四年四月	南牟婁郡御浜町立尾呂志中学校に教諭として赴任
平成十年四月	四日市市立朝明中学校長に就任
平成十一年三月	四日市市立朝明中学校長を退任
平成十一年四月	四日市市教育委員会にて学校教育課長・教育次長・教育監を歴任(平成十七年三月 退任)
平成十七年四月	四日市市立富田中学校長に就任
平成十九年三月	四日市市立富田中学校長を退職
平成十九年四月十八日	木曾岬町教育委員会委員に任命 (平成二十七年九月三十日 退任)
平成十九年四月二十日	木曾岬町教育委員会(旧)教育長に任命 (平成二十七年九月三十日 退任)
平成二十七年十月一日	木曾岬町教育委員会(新)教育長に任命 現在に至る

二、功労の内容

(一) 平成十九年より、十年以上にわたって教育委員会委員ならびに教育長として、卓越した識見と確固たる教育信念をもって、本町教育行政の発展に尽力している。

(二) 園・学校訪問等で児童生徒の様子をつぶさに観察・把握し、学校長等との面談を通して学校の課題を冷静に分析することで、適切な教育施策の推進を図ってきている。幼稚園、学校への更なる支援体制を充実させるために、平成二十三年度より指導主事を2名体制とし教育行政事務の遂行を図るとともに、町単非常勤講師、学習支援員、理科支援員、ICT活用支援員、学校図書館司書、学力補充非常勤講師、英語指導員(JTE)などの人員の配置や、教員研修制度の確立など、段階的に幼稚園・学校教育の人的支援や研修体制の整備に努めてきた。

(三) 幼稚園関係では、すべての子どもたちの教育水準の均等化や育児サービスの効率化が図られるよう新たな就学前教育の在り方を研究し、平成二十年度に現行の法制度の下での幼稚園・保育園の一体化に尽力した。

(四) 「木曾岬町夢とふれあい教育基金」の有効活用として、平成二十年には次の三事業を創設した。①木曾岬町修学奨学金貸与 ②木曾岬町中学生海外派遣事業経費貸与(平成二十二年廃止) ③土曜チャレンジスクール事業の実施。特に、③土曜チャレンジスクール事業については、小学生児童の基礎学力の定着や土曜日における地域の受け皿として、現在に至るまで児童への充実した教育環境を提供し、地域とともに子どもを育ちを支える体制整備のさきがけとしていち早く取り組んできた。

(五) 「学習環境の整備と児童生徒の安全確保」については、平成二十二年度に小中学校全教室に電子黒板ならびに拡大投影機の設置やICT支援員の配置などICT教育の環境整備を進めた。令和元年度には、小中学校へタブレット端末の一部導入を決め、新たな時代に相応しい学習環境整備を推し進めた。また、小中学校の耐震補強工事をはじめ、小学校校舎の強化ガラス・飛散防止フィルム施工、地震・津波警報発令時の早期対応として、緊急放送連動機器を幼稚園、小中学校に設置するなど、安全確保のための学校環境整備にも尽力した。加えて、平成二十二年度に小学校、平成二十五年には中学校において、米飯給食を導入し、児童生徒の望ましい食習慣付けや健康促進にも注力した。また、小学校において平成三十年度にスロープを、令和元年度に階段昇降機を設置し、学校のバリアフリー化にも尽力すると共に、児童用トイレの洋式化及び床の乾式化工事を実施し、令和二年八月より供用を開始させるなど、衛生環境の向上に尽力した。更に、令和二年度末までに、国のGIGAスクール構想に基づき、学習者用一人一台タブレットを整備し、ICT教育推進に向けた学習環境整備に尽力を尽くした。

(六) 木曾岬町における教育振興を体系的かつ総合的に推進するための中長期的方針等の整備にも着手し、平成二十二年度に「木曾岬町教育振興基本計画」(平成二十七年改訂)および「子育て8つの指針」の策定、それに伴う「学校(幼稚園)教育基本方針」「社会教育基本方針」の策定(3年ごとの改訂)を行ってきた。教育に関する学習機会の積極的な推進の観点から、平成十九年度に「子ども読書活動推進計画」を策定し、以降4年ごとの見直しを図ってきた。令和二年十二月には、今日的な教育課題に対応し、本町教育の更なる振興を図るために、「第二期木曾岬町教育振興基本計画」を策定した。

(七) 「地域に開かれた学校づくり」を積極的に推進し、平成二十一年度に学校区の既存の組織を活用した「学校支援地域本部」を設置し、学校と保護者・地域とを継続的に連携させる仕組みを整えるなど、組織体制の確立に尽力した。併せて、学校通信やホームページ、町広報誌を活用した情報発信機能を強化し、学校と地域の信頼関係の構築にも注力した。平成二十八年度には、学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)を導入し、保護者や地域と一体となって子どもの

育ちを育む「地域とともにある学校づくり」へと一歩踏み込んだ転換を図り、これまで以上に地域と協働し、学校や幼稚園の創意工夫を生かした特色ある学校（園）づくりに尽力している。また、これらの動きを受け、地域住民による新たな子ども学習支援組織「木曾岬子ども未来塾」が平成二十九年に設立するなど、地域に与える効果が見られるに至っている。木曾岬子ども未来塾を中心とした本町のこれまでの取り組みが評価され、令和三年二月には、「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受けることができた。

(八) 「社会教育・生涯教育」分野では、平成二十一年度に「木曾岬町文化協会」の設立、平成二十二年度に「木曾岬音頭・小唄保存会」ならびに「櫻華太鼓保存会」の設立、平成二十三年度には「総合型地域スポーツクラブ（きそさきAZクラブ）」の設立に尽力し、地域の文化振興や生涯学習振興の発展に大きく寄与した。また、さらなる「社会教育・生涯教育」の推進をめざし、平成二十九年十二月に竣工を迎えた町立図書館と町民ホールの機能を兼ね備えた複合型施設「教育文化棟」の建設にも尽力するなど、高邁な教育信念をもって事業推進にあたり、本町の教育行政の発展に寄与した功績は誠に大きいものがある。

三、榮譽に関する事項 なし

四、その他特記すべき事項 なし

基準該当者功労調書

(職名) 菰野町教育委員会教育委員

(氏名) 岡島 由香里

一、略歴

平成五年三月 皇學館大學文学部卒業
平成五年四月 三重郡朝日町立朝日小学校教諭に採用
平成十三年十月 同職退職
平成二十一年十月一日 菰野町教育委員会教育委員に就任

二、功労の内容

- (一) 平成二十一年十月から現在に至るまでの永きにわたり、菰野町教育委員会教育委員として教育行政の発展に尽力し、卓越した見識と確固たる教育理念を持って、保護者としての立場から教育に対する問題を提起しながら、学校教育や社会教育の振興及び地域文化の向上に多大な貢献をされた。
- (二) 地域の小学校や中学校において、図書ボランティアとして児童への本の読み聞かせを中心とした活動へ積極的に参加し、他のボランティアの方のリーダー的存在として活躍をされ、児童の豊かな人間性の育成に貢献された。
- (三) 平成二十二年に竣工した菰野中学校の新体育館や平成二十六年に竣工した八風中学校新武道場の建設や、平成二十八年に完了した小学校五校、中学校二校への空調設備の設置など、教育環境の整備に学校とともに尽力された。
- (四) 小学校教諭としての経験や、海外在住の経験など豊富な経験を活かし、地域の保護者の方などからの相談に、学校との橋渡しの役割として、地域とともにある学校づくりの一翼を担っている。
- (五) 令和二年一月から選択制の中学校デリバリー給食を開始する際には、保護者としての立場から様々な問題提起や情報共有を行い、デリバリー給食の実現に向けて尽力された。また、現在も中学校全員喫食の給食の実施に向けて尽力いただいている。

三、荣誉に関する事項

特になし

四、その他特記すべき事項

特になし